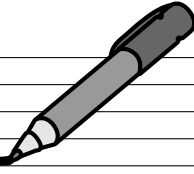


# 編集後記



■市町村課に在籍して10年、合併に携わり6年になる。前回の平成合併では、多くの「民意」が、明らかに行政運営が厳しくなるにも関わらず、回避するための手段として合併を選択しなかった。当時の関係者は、合併のPRに努め出来る限りのことはすべてやったと思う。しかし、住民に対する「合併の必要性」の訴えは、届かなかった。価値観が多様化するなか情報提供のあり方の難しさを痛感した。あれから3年が経過した。「夕張ショック」は市町村を取り巻く環境が大きく変化したことを気付かせた。府内でも、新たな合併に向けた取組が芽吹きだした。「啓発」の重要性は、十分に認識している。「無関心」をなくすことからもう一度、はじめていきたい。

(K. I)

■平成20年春に「おおさか東線」と名づけられた路線が開通します。私は、青春18切符をよく使って旅をするのですが、この前は自宅から山口県の萩市までひたすら電車に乗りながら行ってきました。新幹線で一気に行くルートもあったのですが、やっぱり時間をかけてのんびりと電車で行くのは道中思いもよらない出来事、ストーリーにめぐり合います。そのときは、任期満了前の小泉首相に出会うなど予想もしなかったことが起こりビックリしました。

話を元に戻しまして、おおさか東線は、東大阪市内にも駅が4駅新設されるなど、この路線が出来ることは個人的には大賛成です。今の大阪府内の路線図を見てみると、他都市を訪れるにはほとんど大阪市内を経由していく場合が多いです。東大阪市でも鉄道は近鉄電車が東西には敷設されていますが、南北に縦断する路線はありませんでした。路線ができることで、時間のロスが改善されることはすばらしい進歩だと思います。それ以上に、

都市と都市をつなぐ路線ができることで、人々の新しい出会いとストーリーを生み出す架け橋となってくれるに違いありません。

(Y. M)

■府庁の本館は、大正15年に建築され、現役の都道府県庁舎の中では最古の建物です。その歴史的価値やデザイン性は高く評価され、映画の撮影などでも活用されています。しかし、職場環境という意味では、どうしても近代的な民間ビルには及びません。

私は本館で働いて6年目になりますが、その前は民間ビルの部局で働いていました。最初は職場環境の違いに驚いたものです。特に空調は民間ビルとは比べものならず、最初は慣れるのは大変でした。しかし、慣れとはこわいもので、長く働くと、弱い空調が私にとってもちょうどいい空調になりました。デパートや銀行の冷房ではむしろ寒いと感じるくらいです。家での冷房設定温度も1~2度高くなりました。

現在、地球温暖化防止の取組が必要とされています。この本が発行される頃は空調はいろいろな時期ですが、今年の冬・来年の夏は、設定温度を調節して、地球温暖化防止に取り組みしましょう。

(T. S)

編集庶務は大阪府総務部市町村課  
振興・合併グループで行っています。

〒540-8570

〔府庁の専用郵便番号ですので、  
住所の記載が省略できます。〕

☎ 06-6941-0351 (内線3501)

06-6944-6096 (市町村課直通)

## サマージャンボ宝くじ

## オータムジャンボ宝くじ

～市町村のまちづくりに役立っています～

月刊「自治大阪」の発行は、サマージャンボ宝くじの収益金を活用しています。

